



日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)
《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男
一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2番2号
TEL: 03-3519-5181 FAX: 03-3597-5171
メール: jaera-homepage@elv.or.jp H P: http://www.elv.or.jp/

自動車リサイクル士制度認定講習会 (新規) 東京会場

【自リ士】今年度最後の講習会が無事終了



ELV機構は、11月9日・10日の2日間で「自動車リサイクル士制度認定講習会」を開催しました。今年度の講習会は、この東京会場(LMJ東京研修センター/東京都文京区)が最後で、これを以て全日程が終了しました。

東京会場では、受講者37名(うち全工程36名、引取・フロン工程1名)のほか、行政等からのオブザーバー参加者や関係者を含めた計73名の参加者が集まりました。

仙台会場と同様、行政や自動車メーカーからも講師が

ELV機構のインストラクターのほか、行政や自動車メーカーの方にも講師を務めていただきました。

(写真上)「自動車リサイクル制度の概要」

経済産業省 製造産業局 自動車課
課長補佐 相沢 一宏 様

(写真下)「自動車メーカーの取り組み」

一般社団法人日本自動車工業会
環境委員会 リサイクル・廃棄物部会
委員 浅利 満頼 様

▼講師を務めたELV機構のインストラクターら (五十音順)

有原 良 / 奥津 智昭 / 唐崎 慎也 / 木内 雅之
清野 禎一 / 平地 健 / 三枝 透 / 吉本 和典



目 次

巻頭言	1
自動車リサイクル士	1
業界関係団体交流会	4
自動車技術会企業見学会	4
工場見学会	5
ブロック・地域の活動報告	6
メーカー提供記事【マツダ】	7
鉄スクラップ最新情報	8
行事予定・お知らせ	9
編集後記	9

巻頭言

現在、全国8ブロックで「作業効率」「安全」「組織の活性化」のテーマでベストプラクティス(優れた取り組み)を募集しております。東北各地では、11月から12月上旬に自動車再資源化協力機構様のご協力により、「適正処理講習会」と「独自企画の講習会」が開催されます。「新技術」「自動車業界を取り巻く環境」など企画は様々です。参加形態も会員外同業他社の参加も見られるなど、地域団体活動の参加のきっかけの場や、組合員、会員の情報提供や交流の場となっています。様々な機会でお話をいただき、多くのベストプラクティスが寄せられ、厳しい経営環境を乗り越えるヒントや、活性化につながればと思います。

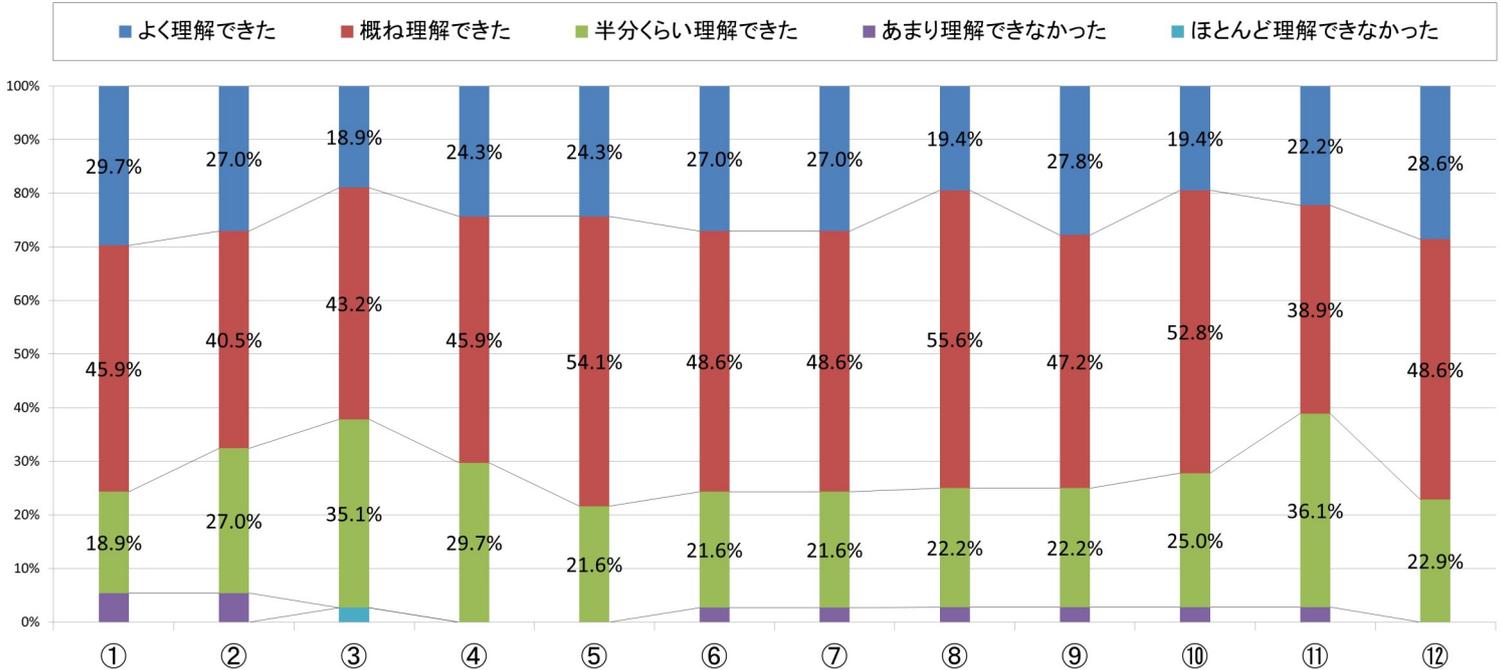
(広報部会 平地 健)

講習会当日、受講者の皆様とオブザーバー参加者（行政等）の皆様アンケートを実施しました。その集計結果を以下のとおり報告します。

受講者向けアンケート結果

（実施日：2016年11月9～10日／回答者：受講者37名）

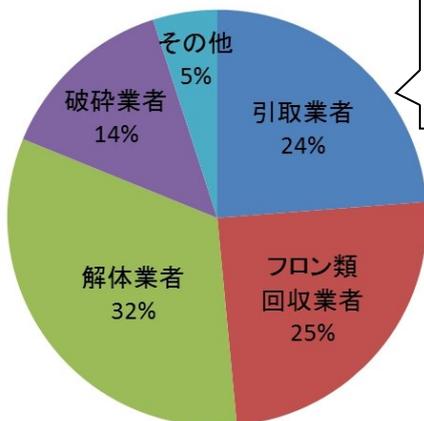
■各講習の理解度



※横軸の丸付数字は下表のとおり各講習内容を表す。

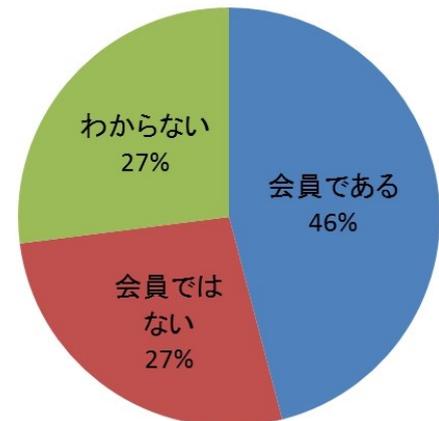
日程	講習内容
1日目	① 開会挨拶／ガイダンス／1巻1章 自動車リサイクル士制度について
	② 1巻2章 自動車リサイクル制度の概要
	③ 1巻3章 1. 自動車リサイクルシステム(JARS)と電子 manifests システム
	④ 1巻3章 2. 引取工程の実務
	⑤ 1巻3章 3. フロン類回収工程の実務
	⑥ 1巻3章 4. 解体工程の実務
	⑦ 1巻3章 5. 破碎工程の実務
2日目	⑧ 2巻1章 安全作業・衛生管理
	⑨ 2巻2章 1. 自動車メーカーの取り組み
	⑩ 2巻2章 2. 自動車リサイクル業界の取り組み
	⑪ 2巻3章 マネジメント
	⑫ 基礎のポイント復習

■受講者の職種（複数回答可）



複数回答可なので
複数業をお持ちの
方も含まれます

■ELV機構の会員か否か



■ 講習会における要望・意見（自由記述） ※一部抜粋・原則として原文ママ（明らかな誤字等は修正のうえ記載）

テキストに準じた内容で分かりやすかったと感じました。

実際の現場実務について勉強になった。

時間が足りなく全般的に急ぎ足の講義でしたが、知らない事も多く勉強になりました。会社に持ち帰って実務に役立てようと思います。

質疑応答の時間があれば良かった。

実際にテストを受ける事で自身のウィークポイントが知れて、有意義でした。

講義内容はとても勉強になりましたが、できればもう少し抜粋して1日で修了する講習会だともっと参加しやすかったと思います。

オブザーバー向けアンケート結果（実施日：2016年11月9～10日／回答者：行政など21名）

■ 講習会における要望・意見（自由記述） ※一部抜粋・原則として原文ママ（明らかな誤字等は修正のうえ記載）

普段、事務処理だけをしているので、自動車リサイクルの実務の説明は、大変参考になりました。担当引き継ぎの際には、この講習会の受講を薦めたいと思います。

自動車メーカー社員の教育にも有効であると思いました。

ビデオ等の動画も取り入れ、受講者の印象に残るような講習になればもっと良いと思います。実務上の工夫やアイデアを水平展開していただいたのは良かったと思います。

行政の人間は、法律は読めても実際にどのような作業が行われているのを見る機会がなく、現場のニーズと乖離がある印象があった。今回の講習は行政としては作業の実際を知る良い機会になるかと思う。

許可業者等を対象としているので、仕方がない面もあるが、禁止されている行為について、もう少し時間を割いてほしい。

アクセス性から見て、開催場所は東京大阪にした方が良いと思われた。

（アンケート結果は以上）

フォトギャラリー：講習会の様子、講師陣



自動車リサイクルに携わる関係団体の代表者らが一堂に会す

ELV機構が業界関係団体交流会を主催



ELV機構主催の「2016年度 第1回 業界関係団体交流会」が11月18日にELV機構会議室（東京都港区）にて開催されました。自動車リサイクル関係団体のほか、経済産業省が参加され、各団体の情報交換や互いの親交を深めようといった趣旨で行われました。

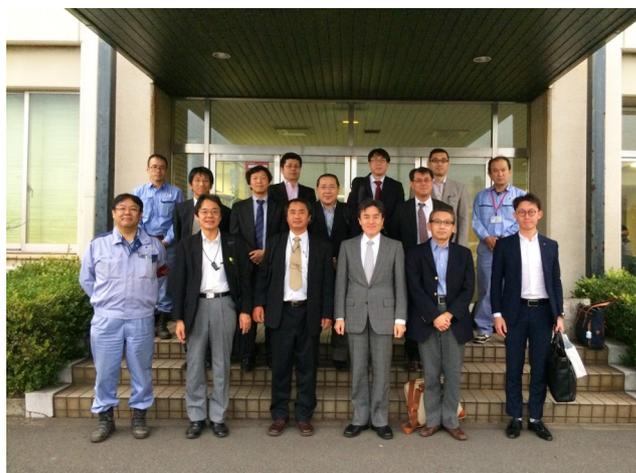
当日は、日本自動車リサイクル部品協議会、日本トラックリファインパーツ協会、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合、東日本自動車解体処理協同組合、RUMアライアンス、JARAグループ、ビッグウェーブ、システムオートパーツ、日本パーツ協会（JPA）、トータルカーリサイクル（TCR）グループ、シーライオンズクラブ、テクルスネットワーク、リビルト工業会全国連合会といった団体が参加されました。

意見交換会では、団体組織の現状を各組織の代表から報告してもらい、使用済車輛の入庫激減、市況の低迷が大きな課題となっているといった内容の意見が多く聞かれました。また、経済産業省の保坂室長より、自動車リサイクル制度の現状と今後について、先般行われた産構審・中環審合同会議の内容を中心に報告がなされました。その後の基調講演では、日本生産性本部の喜多川和典センター長より「欧州のサーキュラー・エコノミーがELVリサイクルに及ぼす影響」といった演題で、今後の自動車リサイクルに影響を及ぼす可能性のある欧州より端を発した循環経済についてのお話がありました。新たな価値の創造と魅力の見せ方が大事との言葉に、参加された方々は一様に頷いていました。

「プラスチックリサイクル」をテーマとして3つの企業を見学

ELV機構副代表理事が自動車技術会の見学会に参加

公益社団法人自動車技術会が主催する企業見学会も含めた「リサイクル技術部門委員会」にELV機構の永田副代表理事が参加しました。当日の内容について、永田副代表理事よりご報告いただきました。



公益社団法人自動車技術会の「リサイクル技術部門委員会」が企業見学会を含めた形で10月25日、26日の二日間に渡って開催されました。リサイクル技術部門委員会では年に一度の頻度で企業見学会を設けての開催を行っています。今年度は前期からのテーマであるプラスチックリサイクルに重点を置き、神奈川県川崎市周辺にあるプラスチックリサイクル事業を運営する企業中心に見学会を行いました。25日は昭和電工株式会社 川崎工場へプラスチックケミカルリサイクル施設の見学、続いてJFEプラリソース株式会社 京浜事業所へプラスチックリサイクル施設および家電リサイクル施設を、翌26日は株式会社ヤマナカヘシュレッター施設といった日程で自動車関連とはまた違ったプラスチックリサイクル、シュレッター

による分別作業を視察しました。家電リサイクルでは自動車リサイクルと同様、エアコン、テレビ、洗濯機といった家電を人間の手による解体、分別が行われていました。現状としては従事する日本人の作業員が少なく、海外労働者を雇用しているのが実情であるとのことでした。また、委員会会議では、今期のテーマの「プラスチックリサイクルの意義」についての最終成果報告に向けた検討、また来年度の活動テーマである「ASRマテリアルリサイクル」の進め方について議論がなされました。

自工会・車工会主催の工場見学会に参加

11月7日(月)、日本自動車工業会・日本自動車車体工業会の主催で「自動車及び車体工場見学会」が開催され、ELV機構会員や本部役員らが参加しました。

この見学会は、日本自動車工業会・日本自動車車体工業会の商用車架装物のリサイクルに関する自主取り組みの一環として毎年開催されているもので、解体事業者がトラックや架装物の製造過程を理解することにより、さらなるリサイクルを促進することを目的としています。一方、日本トラックリファインパーツ協会(JTP)とELV機構トラック・バス部会は解体事業者として協力しながら、自動車メーカーや車体メーカーの会員向けにトラック解体現場の見学会などを企画しており、より解体しやすいトラックや架装物の製造に役立てていただいています。今回も昨年同様、JTPとELV機構の会員・関係者と日本自動車工業会・日本自動車車体工業会の関係者、総勢29名が参加し、以下の2社の見学を行いました。

見学先1 東邦車輛株式会社 群馬製作所 (群馬県邑楽町)



東邦車輛株式会社 群馬製作所は、同社の特装自動車の主力工場で、トレーラーを主体にタンクローリーやダンプトラックなど多種多様な品目を生産しています。1999年10月に開所したとのことでした。

生産品目が多種多様ということもあり、車種毎の専用設備を極力減らし、各車種の生産数量に合わせて組立ショップの面積をフレキシブルに変化させており、また、特装性の高い製品の組み立てはラインではなく特定のスペースに集約して行っているとのことでした。

群馬製作所では、組立棟、塗装棟、倉庫棟や車軸を製造しているFA棟を見学しました。組立棟では、タンクの検査工程を見学することができましたが、容量が100トンもある地下貯水槽に蓄えられた水を実際に

車両のタンクに注入し、容量の確認や漏れ有無の検査を行っていました。この水は都度、洗浄処理をされながら繰り返し利用されているとのことでした。また、倉庫棟では小型部品を保管するパレット約1,600枚を備えた立体倉庫が効率的な生産や省スペースに有効に活用されていることを見学しました。

見学先2 日野自動車株式会社 羽村工場 (東京都羽村市)



日野自動車はトヨタ自動車のグループ企業ですが、羽村工場は、同社が国内に持つ4つの製造拠点の中で唯一、トヨタ車を生産している工場だそうです。羽村工場の主要製品は、小型トラックの日野デュトロのことですが、トヨタ自動車のトラック(ダイナ、トヨエース)やSUV(ランドクルーザープラド、FJクルーザー)もトヨタ生産方式により生産されていました。

羽村工場では、小型トラックの組み立てラインや検査ライン、SUVの組み立てラインを見学しました。



入り口付近には、ダカール・ラリーに参戦した「日野レンジャー」が展示されており、参加者の注目を集めていました。

ブロック・地域団体の活動報告

ブロック活動報告

月日	内容	場所
11月4日	中国・四国ブロック会議	サンポート高松(香川県高松市)
11月19日、20日	関東ブロック交流会	ホテル華鳳(新潟県新発田市)
11月21日	近畿ブロック会議	エル・おおさか(大阪府大阪市)
11月26日	九州ブロック会議	くまもと森都心プラザ(熊本県熊本市)

PICK UP



関東ブロック交流会：三枝 透 関東ブロック長からの報告



11月19日(土)、新潟県のホテル華鳳にて関東ブロック交流会が開催されました。関東ブロックでは、ブロック内の各地域を持ち回りで順に訪問して交流会を続けています。年に1度のこの交流会を楽しみにしている会員さんもたくさんいらっしゃいます。

例年同様、自再協の柴田部長をお呼びして「自動車リサイクルの現状」について1時間ほどの講演をしていただき、質疑応答の時間も設けました。最新情報の装置等も紹介していただき、非常に好評でした。本部事務局の事業報告と、各地域についての情報交換もしました。活発な意見が飛び交い、有意義な時間を過ごすことができました。

昨年までは、交流会と親睦ゴルフだけでしたが、今年は初めての試みとして、地元企業の見学会も合わせて行いました。エコリサイクル共伸さんの新方式のシュレッダー工場(写真左上)を見学し、これからの自動車解体業界を見つめなおす貴重な体験を得ることができました。(参加者25名)

地域団体活動報告

月日	内容	場所
11月22日	福島県組合：適正処理講習会 「リサイクル技術&マーケティング講習会」	郡山商工会議所会館 (福島県郡山市)
11月24日	岩手県組合：適正処理講習会 「適正処理地域講習会及び低電圧取扱安全講習会」	岩手県自動車整備振興局講習会場 (岩手県紫波郡)
11月24日	岡山県組合：交通遺児育成基金贈呈式	自動車事故対策機構岡山支所 (岡山県岡山市)

PICK UP



岡山自動車リサイクル協同組合：成本 晃一 理事長からの報告



11月24日、私共、岡山自動車リサイクル協同組合は、交通遺児育成基金贈呈式に参加しました。私共の組合は、今年で設立30年を迎えることが出来ました。そこで記念事業と致しまして、社会貢献の一環として交通遺児育成基金への寄付をさせて頂きたいと考えました。今年の5月から10月末までの期間、各組合員、賛助会員から105,822円の募金が集まりましたので、組合からの100,000円と合わせて205,822円をこのたび寄付させて頂きました。我々は使用済自動車を扱うということで、少なからず交通遺児という問題と関わりがあります。今後とも、交通遺児を出さないよう組合員一同、より一層、交通安全に努めて幅広くアピールしていきたいと思っております。

■リサイクルに配慮した開発・設計

マツダでは自動車の全ライフサイクルにおいて3R(リデュース、リユース、リサイクル)を軸とした資源循環の取り組みを行っています。自動車の材料には、鉄、アルミニウム、樹脂、レアメタルなど限りある資源が含まれています。マツダは、「リサイクル設計ガイドライン」を1992年に策定し、開発中のすべてのクルマに3R設計を取り入れています。(図-1)

具体的には、以下の取り組みを推進することで、新車のリサイクル性を向上させています。(図-2)

1. リサイクル可能な部品や素材を取り出しやすくするために、解体・分離が容易な車両の設計、解体技術の研究
2. ASRの構成重量の多くを占める樹脂について、リサイクルしやすい材料の採用

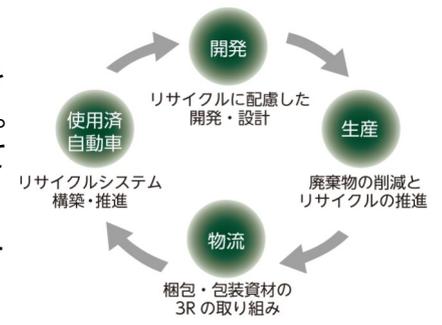


図-1

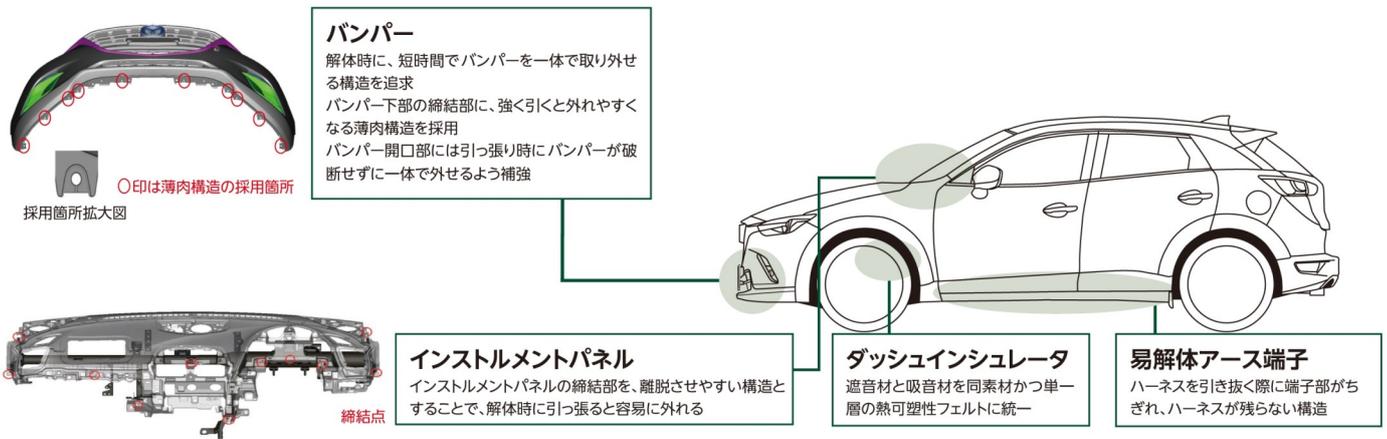


図-2

■キャパシターの適正処理

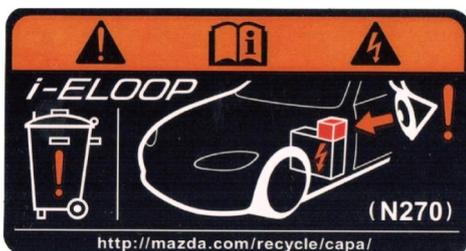
マツダ車の特定のモデルには、減速エネルギー回生システム「i-ELOOP(アイ・イーループ)」用としてキャパシターが搭載されており、使用状態により電気が残留していることがあります。電気が残留している状態で使用済自動車が破棄されると、キャパシターに溜まっている電気が原因で破砕時の火花発生、火災、ハーネス切断時のショートによる発熱、火傷、濡れた人体接触による感電等が発生するおそれがあります。事故を防ぐため、使用済自動車の解体時には必ずキャパシターの強制放電処理を実施してください。

作業時の安全確保のため、事前にキャパシター処理要領をよくお読みいただき、適正・安全な放電作業を行なってください。(マツダHP内キャパシター処理情報)

搭載車にはエンジンルーム内に以下のラベルが貼られていますので、必ず確認してください。

▼「i-ELOOP」用キャパシター搭載車両コーションラベル

【ロードスター用】



【ロードスターを除くモデル用】



鉄スクラップ最新情報

11月第4週(24日)の鉄スクラップ動向

[提供: 日刊市況通信社]



11月24日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	24,000 ~ 24,500	様子見
	南関東	24,000 ~ 24,500	様子見
名古屋		24,000 ~ 25,000	様子見
関西	大阪	23,500 ~ 25,000	様子見
	姫路	24,000 ~ 25,000	様子見

全国的に相場続伸 東京製鉄が18日に値上げ、国内電炉各社も同調

国内鉄スクラップ市場は、電炉各社が18日の週末に鉄スクラップ購入価格の値上げ改定を実施したことで、全国的に相場続伸の動きとなった。

東京製鉄が18日に全拠点の購入価格を拠点別に500~1,000円の値上げを実施すると、一部様子見した筋もあるが、国内電炉各社は概ね同調した値上げを実施。東北、新潟、関東、中部で1,000円どころ、西日本で500円どころの上伸となった。

輸出市場では、台湾やベトナムミルが市場から後退するなど、変化が見られる。このため市中間屋筋の間では手持ちのスクラップ在庫の出荷に動き出す姿勢も見られたが、市中玉の荷動きが鈍く「品不足感」が残る地域も多い。電炉筋の多くはスクラップの入荷減少につながる値上げ見送りは避け、同調して値上げを実施した。

ただ、関東湾岸の商社・シッパー筋は、輸出市場の変化を受けて、週末からの浜値の値上げを見送り、様子見姿勢を維持する筋も多く、対応に差が出ている。

【関東地区】市況は上昇、湾岸の価格対応にはバラつきも

関東地区では、東京製鉄の16日および18日の値上げに他の電炉各社も同調し、市況は上昇した。しかしその後、輸出マーケットで相手国側に「高値警戒感」が強まり、新規商談が滞り始めた。このため関東湾岸商社・シッパー筋の価格対応にバラつきもみられるようになった。短期間の急伸に対する「先行き不透明感」もある。H2炉前実勢価格は1トあたり24,000~24,500円中心、高値25,000円見当。H2浜値は23,500~24,500円中心。

【東海地区】11月の値上げ幅は18日までに4,500~5,000円見当に

東京製鉄・田原工場は18日付で11月に入り4回目の改定を行い、田原工場は一律1,000円の値上げとなり陸・海上特級を25,000円とした。同工場の特級が25,000円台となるのは5月上旬以来。これを受けて地区電炉他社は即追随上げへ動いており、11月の値上げ幅は18日までに4,500~5,000円見当となった。H2炉前実勢価格は24,000~25,000円中心。なお業者間には先行き警戒感が出始め、月後半以降は出荷繰りへの動きが広がっている。

【関西地区】タイト感残りつつも様子見気配強まる

大阪地区の市況は様子見に転じつつある。水面下での引き合いが残りつつも、11月最終週からは地区電炉の2社が定期炉休入りとなる。その一方でベトナムや台湾が高値成約に慎重姿勢を見せるなど、輸出市場も頭打ちの様相が強まりつつある。このため、11月中旬に急騰した市況に落ち着きが見られ始めている。H2炉前実勢価格は23,500~25,000円、一部上値26,000円。姫路地区のH2炉前実勢価格は24,000~25,000円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、11月24日午前時点のもの)

行事予定

12月の主な予定

12月 6日 (火)

★第3回 ブロック長会議

12月 7日 (水)

★第3回 未来部会

12月12日 (月)

★JIS開発事業 第6回 原案作成WG

12月15日 (木)

★JIS開発事業 委員長合同委員会

12月19日 (月)

★JIS開発事業 第2回 原案作成委員会

12月20日 (火)

★第9回 広報部会

12月21日 (水)

★第3回 リサイクル技術部会

12月29日 (木)

～1月 4日 (水)

★年末年始休業期間



お知らせ

◆会員数 (2016年11月末日時点)

総数 553社 / 会員 527社、賛助会員 26社

◆南アフリカ大使館との意見交換の報告



11月17日、ELV機構会議室(東京都港区)にて、南アフリカ大使館の方々とELV機構の酒井代表理事らが、自動車リサイクルに関する意見交換を行いました。

きっかけは先方からの依頼で、近年、南アフリカでも自動車リサイクルに対する関心が高まっており、日本の自動車リサイクルについて話を聞きたいという趣旨で今回の意見交換が実現しました。今後も継続的に意見交換を行っていく予定です。

編集後記

今、世の関心事のひとつに米国大統領選挙で勝利したトランプ氏の動向が上げられるのではないのでしょうか。この選挙の結果により素材価格の急伸といった効果もあったとか。その関係性は私にはわかりませんが、ここに来て鉄スクラップ、素材価格も上昇しました。しばらくぶりの素材価格の上げ基調に、ほっと溜息をついておられる方も少なくはないのではないのでしょうか。反面、いつまで続いてくれるのかと不安な思いにかられるのも事実。▼人間は分かっている一喜一憂してしまうもので、つつい周りの状況に振り回されてしまいがちです。「これからの時代はこれまでのやり方は通用しない」と分かっているても、少しばかり回復の兆しが見えると「以前と同じ好景氣に戻るのではなかろうか」と淡い期待をしてしまいます。▼11月18日、業界関係団体交流会で行われた日本生産性本部の喜多川センター長の「サーキュラー・エコノミー(循環経済)」の講演は、そのような御都合主義が打ち消される、ビジネストrendが変わったことを告げるリサイクル業界に対するテーゼそのものでした。

(広報部会 部会長 永田 則男)